Angel's Voice

宣教１４０周年を迎えて

ルツ 原田　里香子

今年、神戸教区は宣教 140 年を迎えます。それに伴い様々な企画が準備されていますが、パイプオルガン委員会では、６月４日(土)英国でご活躍中のジョナサン・グレゴリー氏をお迎えして、オルガン研修会とコンサートを行う予定です。オルガン(マンダー社・英国製)購入の際グレゴリー氏に助言を頂き、その繋がりもあってこの度の企画が実現しました。是非多くの方が研修会に参加し、コンサートに足を運んで下さる事を期待しています。

現在の「聖歌集」は発行されて今年で 10 年になりますが、慣れ親しんでいる聖歌は英国で生まれたもの、と言われる方は多いと思います。グレゴリー氏による聖歌や礼拝奏楽曲の指導が、新たな発見につながり、益々充実した礼拝が実現できるよう願います。

研修会に続くオルガンコンサートでは、英国人作曲家の作品も披露して頂く予定です。グレゴリー氏は 1992 年日英音楽協会、日英合唱団を創立、音楽を通じて日英の交流、相互理解促進に貢献しておられます。英国製のオルガンで英国の楽曲をたくさんの方にお楽しみ頂きたいと思います。

多くの方の祈りと献金に支えられて設置されたパイプオルガンは今年で奉献 3 周年を迎えます。聖ミカエル教会の主日礼拝を初め、様々な礼拝、行事、奏楽者育成のオルガンレッスンも定着し、この度のような企画も可能になりました。神戸教区 140 年の歴史にとってもパイプオルガンの設置は筆禄される出来事の一つです。礼拝がオルガンに支えられてより充実し、幅広い宣教活動が展開され、オルガンの存在意義が高まるように祈ります。

140 年前、宣教の種が蒔かれた時、聖歌はどのように歌われたのでしょうか？楽器の調達はどのようにされたのでしょうか？多くの方は西洋音楽に触れる機会も極めて少なかったと想像します。今と全く違う状況下で礼拝音楽に携わり、信仰と共に聖歌を歌い繋いでこられた先達者、奏楽者たちに感謝を奉げます。

今日、私たちの日常には音楽があふれ、聖歌の音楽性も多様化してきました。繊細で幅広い音楽的可能性を持つオルガンは大変魅力的な楽器で会衆の祈りを支え、力を引き出す事ができます。奏楽者には楽器や楽曲の知識習得、演奏技術や音楽性向上のための絶え間ない練習、豊富な経験が不可欠です。また何より祈る事、礼拝を深く理解するキリスト者、他者に仕える奉仕者である事が求められます。私たちは次世代に生き生きとした礼拝音楽を伝え一人一人が宣教の担い手になれるようにと願います。

（礼拝音楽担当、パイプオルガン委員会委員長）

パイプオルガン委員会主催宣教１４０年記念
J.グレゴリー氏　研修会・コンサート

６月４日(土)10:00～13:00　研修会
６月４日(土)17:00～　　コンサート
前売り￥2,000　当日￥2,500

曲目:ﾊﾞｯﾊ ﾄｯｶｰﾀとﾌｰｶﾞ ﾆ短調 、ﾍﾝﾃﾞﾙ､ｴﾙｶﾞｰ、他

辻　彩乃氏に聴く　パート1

「キリスト教は歌う宗教である」と言われ、礼拝は音楽にあふれています。奏楽者が最も大切にしたい「聖歌伴奏」について、大阪・川口基督教会オルガニストで京都ウイリアムス神学館で教鞭をとっておられる辻氏にお話を聴きました。

Q.奏楽という奉仕を任されるオルガニストにとって、大切な心構えは何でしょうか？

A.会衆として礼拝に出ること、礼拝者であることではないでしょうか。礼拝に出ることによって責任と自覚が芽生え、奏楽の重要性、準備と練習の大切がわかるようになります。
私は子どもの頃から聖歌が大好きでした。大学生の時からオルガンを弾き始めましたが、祈祷書が文語から口語になってから「礼拝についてもっと知りたい」と思い始め、次第に「どの様に弾いたらよいか？」と考えるように変えられていきました。

Q.「礼拝で歌う」ということには、どのような意味があるのでしょうか？

A.歌うことは「人から神への応答」であり、「賛美、感謝、願いなどの祈りを奉げること」です。礼拝の歌は「個人ではなく信仰共同体の歌」です。歌うことで礼拝は豊かになり、会衆が一つとなって歌うことで私たちは神に出会います。「聖歌集」最初のページ「はじめに」を読むことをお勧めします。冒頭の「聖歌は、神への感謝・賛美に対する私たちによる最高の表現といえます」この言葉に集約されます。ですから奏楽者にとって何よりも優先すべき大切なことは、聖歌伴奏に力を尽くすことです。

Q.聖歌伴奏に至るまでを「準備」と「練習」二つに分けて考えておられますね。

A.聖歌の命は「ことば」にあります。伴奏はことばを表現したものでなければなりません。奏楽者に求められるのは「ことば」に向き合い、ことばの力を引き出すための準備と練習をすることだと思います。すぐにでも聖歌を弾いてみたい衝動にかられますが、まずは「ことばを読む」準備作業から始めたいと思います。

Q.聖歌伴奏の準備・練習というと、まず鍵盤に向かうと思うのですが、歌詞を読む作業がスタートなのですね。

A.歌詞の黙読に続いて、朗読するように声を出してしっかり読み、ことばの固まりの動きやエネルギーを捉えましょう。また「　」でくくられたことばが、神やイエス・キリストのみ言葉であることを心に留め、わからない文語の言葉の意味は明確にし、楽譜内に書かれた平仮名の歌詞にも目を通しておきましょう。例えば「は」の発音は「ha」なのか「wa」なのか？
またその日がどの様な礼拝なのかを知っておくため、聖書日課を読んでおくことは不可欠です。

京都教区聖アグネス教会にて、辻彩乃氏（真ん中）

Q.つい音楽的なことを優先しがちですが、礼拝や聖歌の歌詞をよく理解するという準備が何よりも大切なのですね。

A.カトリック作曲家・新垣壬敏氏の著書「言葉と音楽-朗読は音楽のはじまり」には「旋律は言葉の解釈である」とあります。例えば 363 番「ガリラヤの風かおる丘で」は各節の情景、内容、メッセージが違います。重要なことばは何

か？どの様な表現、音色が求められているのか？など旋律を弾く前に、ことばをかみしめ、イメージを思い描いておくこと律を弾かずに歌うことを実践しています。情景や内容を想像しながら歌うとダイレクトに歌の性格に近づくことができます。テンポ、歌詞と旋律の関係性、フレージングが鮮明になり、ブレスやことばの切れ目を楽譜に書き入れることもできます。

聖歌にはテンポが記されていませんが、聖歌の略解本(注)などから曲の背景を知り、ヒントを得ることができます。民謡や祝祭が元になっている曲は要注意ですが、曲を知ることでおのずとテンポが示されます。また最初に感じた直観を信じましょう。

練習と同等、それ以上に準備が重要と先輩オルガニストに教えられました。誰よりもその日の聖歌について考え、ことばに向き合い、曲と対話したささやかな自信が、当日の奏楽を導き支えてくれるのではないでしょうか？

(注)：「心は賛美に満ちて」(聖公会出版)、「讃美歌 21 略解」(日本基督教団出版局)など、作詞者、作曲者、曲の成り立ちなどについての解説本。

Q.実際の楽器で練習する時はどの様にすればよいですか？

A.まず単旋律・ユニゾンで弾きながら歌い、最初に感じたリズムやフレージングを思い出します。次にバスも付けて弾き、その旋律を聞きます。その後、四声体で弾いてみます。ここでは十分な技術練習が必要です。指に無駄な力を入れず自由に動かせる柔軟性が求められます。

一つのフレーズをレガートで弾きますが、明確なことばの切れ目はソプラノをほんの少し音を離して弾くとよいと思います。わずかな間でも言葉の切れ方を意識した奏楽は、キレの良い生きた伴奏を作りだします。

音符とことばの数が異なる場合(例：じゅう--じか)、促音(例：ふっかつ) などは、ことばの音価、リズムが感じられるような工夫、タッチが求められます。

辻彩乃氏　川口基督教会のパイプオルガンの前で

Q.ことばの内容を伴奏に反映させる方法とは？

A.簡単なのは内容、ことばによって音色を変えることです。「十字架、罪、悲しみ」などのことばが歌われる節は、静かな抑えた音色を選ぶと良いと思います。逆に「力、栄光、復活」などのことばには、力強く輝かしい音色が求められます。
さらに、ことばによって伴奏の和声を変えたり、最終節にアレンジを加えてことばを際立たせると、とても効果的です。アレンジを収録したラスト・ヴァース集(注)からヒントを得ることもできます。

また今歌ったことばをもう一度心にしずめるため、あるいは次の節への展開のため、短い間奏を入れることも効果的です。長すぎず、短すぎず会衆が混乱しないふさわしい間奏を準備しましょう。最も大切なことは、歌の邪魔にならない適切なアレンジをすることです。

(注)：200 Last Verses for Manuals
Noel Rawsthorne 出版
ソプラノの旋律はそのままで、和声が違う聖歌の楽譜集。

次号に続く

(質問者：原田里香子)

辻　彩乃（つじ・あやの）
大阪教育大学特設音楽課程ピアノ科卒業。同大

学院修了。相愛大学音学部オルガン専攻卒業。同専攻科修了。日本オルガニスト協会会員。日本オルガン研究会会員。キリスト教礼拝音楽学会会員。日本賛美歌学会会員。ウイリアムス神学館教授(教会音楽)。大阪教区 礼拝・音楽委員会委員。京都教区 礼拝部協力委員。川口基督教会オルガニスト。

教区オルガン・レッスン報告

パイプオルガン委員会主催レッスン

2015 年 10 月(7 人)聖歌 69、74、91
11 月(7 人)アドヴェント奏楽曲
12 月(8 人)クリスマス奏楽曲、
2016 年 1 月(7 人)ペダル奏法、
2 月(6 人、聴講 1 人)チャントⅠ
　キリエ、記念唱、アニュスデイ
3 月(6 人)チャントⅡ
　グローリア、サンクトゥス

パイプオルガンレッスンを受けて

エリザベス　浪花　睦子

憧れのパイプオルガンで聖歌隊のご奉仕が出来るかもしれないと知った時、喜びと幸せを感じました。デリケートな楽器ゆえ、弾く人を選ぶ事も知っていましたが、思い切ってレッスンを申し込んだところ、レッスン初日、近隣の教会から多くの受講者が集まりました。ストップ（音色）表が配られ、井原先生が楽器の特徴や扱い方を説明されましたが、初めて耳にする言葉ばかりで意味も解らず、不安を覚えたことは忘れられません。

しかし先生は各人のレベルに合わせて優しく丁寧に、解り易くご指導してくださいます。レッスンでは受講者が互いの演奏を聴き、感想を述べ合う事で自分の演奏を客観視できるのもグループレッスンのメリットです。また他の方の礼拝音楽の心づもりを聞いて励まされ、お互いを支え合い大きな恵みを授かる時間となっています。

聖歌隊の伴奏では、歌詞を読み込み、隊員と心を一つに出来るよう努力します。しかし礼拝で弾く場合には、音色やテンポを考慮し会衆をリードする事も考える必要があります。今はまだ弾く事で精いっぱいですが、歌詞に思いを馳せ会衆の方々のお祈りを妨げる事なく、神様に感謝・賛美を表せるような奏楽が出来るように歩みを進めたいと思っています。

今レッスンに参加されている若い方々と共に勉強しています。皆様の温かいお見守りとお祈りのうちに前進できますようにと願っています。（神戸ミカエル教会信徒・聖歌隊奏楽者）

礼拝・行事報告

オルガン奉献 2 周年コンサート
2015 年 10 月 31 日(土)15:00～
オルガン：松原晴美氏
ソプラノ：喜多ゆり氏

唱詠夕の礼拝
2016 年 1 月 23 日(土)17:00～
聖歌隊指揮・指導：喜多ゆり氏
大聖堂聖歌隊、オルガン：原田里香子
世界祈祷日礼拝（神戸伝道区・婦人会担当)
2016 年 3 月 4 日(金)13:30～
オルガン：伊藤純子氏

神戸伝道区主催　東日本大震災 5 年記念礼拝
2016 年 3 月 6 日(日)15:00～
説教：越山健蔵司祭(東北教区)　奨励：坪井智執事
大聖堂聖歌隊　ギター：藤井尚人司祭
ヴァイオリン：江見かのん姉
歌：緋田吉也氏、ピアノ：山科まゆ氏
オルガン：浪花睦子姉、原田里香子

説教者：越山健蔵司祭（右）

【編集後記】

先日「性格は行動です」と言われ、納得した。見えない性格が見える行動に現れるという。

年に数回 土曜日の夕方、大聖堂聖歌隊と共に祈りを歌う「唱詠夕の礼拝」を行っている。静かな大聖堂に歌声が一つになって響き、夕陽が差し込んで神秘的な瞬間が訪れる。ゆったりとした大切な祈りの時である。礼拝冒頭「思いと、言葉と、行ないによって、多くの罪を犯しています」と懺悔する。性格が行動に出るように「思い」は「言葉と行ない」となって現れる。何を思い、何を言い、どう行動するのか？

パイプオルガン会報紙事務局（神戸教区事務所）

〒650-0011

神戸市中央区下山手通 5 丁目 11 番 1 号

☎078-351-5469　fax(078)382-1095